

友人の皆さん、

今日、私は数千年前にこのマントラを生み出した大陸を代表し、この会議に参加しています。

**सम्-गच्छ-ध्वम्
सम्-व-दद्वम्,
सम् वो मानसि जानताम्।**

サム・ガッチ・ドウフム

サム・ヴァ・ダドヴァム

サムヴォ・マーナシー・ジャーンターム

21世紀の今日、このマントラの重要性と意義はますます高まっています。

सम्-गच्छ-ध्वम् (サム・ガッチ・ドウフム) は、「皆で共に動こう」、सम्-व-दद्वम् (サム・ヴァ・ダドヴァム) は「皆で交流しよう」、सम् वो मानसि जानताम् (サムヴォ・マーナシー・ジャーンターム) は「皆の心をひとつにしよう」という意味です。

友人の皆さん、

気候変動サミットに参加するため私が初めてパリを訪れた当時、世界の国々は気候変動に関する約束を次々と発表していました。しかし私は、新たな約束を付け加えようとは思っていませんでした。私は全人類に関わる懸念を抱え、'Sarve Bhavantu Sukhinah' (皆が幸せでなければならない) というメッセージを発信する文化の代表として、会議に参加しました。

私にとって、パリ会議は単なるサミットではなく、世界を大切に思う気持ち、コミットメントそのものでした。インドは世界に対して約束をしませんでしたが、12億5000万人のインド人は、自らに対して約束をしました。

インドの私たちは、何億という人々を貧困から救い出し、何億という人々の暮らしをより良くするため、昼夜を問わず働き続けています。インドの人口は世界人口の17パーセントですが、世界の地球温室効果ガス排出量において、インドは5パーセントを占めるに過ぎません。そんな発展途上国のインドが、義務を果たしていることを示すため、あらゆる手段を尽くして努力をしていることを、私は嬉しく思います。

今日世界は、インドが自国のパリ協定国別削減目標 (NDC) を発表し、それを達成した唯一の主要経済国であることを知っています。私たちは強い決意をもってあらゆる手段を使って努力し、結果を出しています。

友人の皆さん、

今日、私はインドの実績を携えて、ここに参りました。私の言葉は、単なる言葉ではなく、これからの世代に明るい未来を迎えて欲しいという応援の言葉です。現在インドは、再生可能エネルギー設備容量において、世界第四位の実績があります。インドの非化石電源比率は、過去7年間で25パーセント以上増加しました。現在、インドの電源構成に占める非化石電源比率は、40パーセントに達しています。

友人の皆さん、

インドでは、延べ数で数えれば、世界人口を上回る数の旅客が毎年鉄道を利用しています。その巨大な鉄道網において、2030年までに「ネットゼロ」を実現するという目標が設定されました。この取り組みだけでも、年間6000万トンの温室効果ガス排出削減に繋がります。同様に、インド政府が主導する大規模なLED電球推進活動も、年間4000万トンの削減に繋がります。今日、インドは強い意志をもって、このような多くの取り組みを遂行しています。

また、インドは世界各国との国際協力を促進するため、制度的解決策を打ち出しました。私たちは太陽光エネルギー分野での革命的なステップとして「国際太陽光同盟（ISA）」を、さらに気候適応性の高いインフラを構築するための「災害に強いインフラのためのコアリション（CDRI）」を立ち上げました。これは、何億という人々の命を救うためのセンシティブで重要な取り組みです。

友人の皆さん、

もうひとつの重要なテーマについてお話ししたいと思います。今日、世界の人々は、ライフスタイルが気候変動に大きな影響を及ぼすことを認識しつつあります。私はここで、「一言運動」について提案したいと思います。

気候問題という文脈から見れば、この「一言」は、「一つの世界」の基盤となり得ます。その「一言」とは、「LIFE」一すなわち、Lifestyle For Environment（環境のためのライフスタイル）です。世界のすべての人間は一つにならなければなりません。私たちは一つの集団としてこの一言運動に参画し、「LIFE一環境のためのライフスタイル」という重要なメッセージを世界に広めなければなりません。

これは、環境を意識したライフスタイルを推進するための大衆運動になる可能性があります。今日求められているのは、「思慮深い意図的な活用」であり、「思慮のない破壊的な消費」ではありません。これらの運動がひとつにまとまって目標を定め、力を発揮すれば、漁業、農業、ウェルネス、食の選択、包装、住宅、ホスピタリティ、観光、衣服、ファッション、水管理、エネルギーなど、多様な分野において革命を起こすことができます。

私たち一人一人は毎日、意識的な選択をしなければなりません。世界の何十億人もの人々が日々意識的な選択を行っていくなれば、私たちは気候変動との闘いにおいて、毎日、何十億歩も前進することができます。

私はこの運動を、前世紀における経験を踏まえ、経済、科学を含む、すべての領域において進めるべきだと考えます。これこそが、自己実現への道です。これこそが、利益を得られる唯一の道です。

友人の皆さん、

現在、世界中の人々が気候変動と戦うために知恵を絞っていますが、私はインド代表として、この課題に立ち向かう力をくれる神聖なるネクターの五つの材料「パンチャムリット (Panchamrit)」をご紹介しますと思います。

一つめは、「インドは2030年までに、500GWの非化石エネルギー発電能力を達成する」。

二つめは、「インドは2030年までに、エネルギー所要量の50パーセントを再生可能エネルギーで賄う」。

三つめは、「インドは2030年までに、温室効果ガス総排出量を10億トン削減する」。

四つめは、「インドは2030年までに、経済における炭素集約度を45パーセント未満にする」。

そして五つめは、「インドは2070年までに、『ネット・ゼロ』を達成する」。

これらのパンチャムリットは、インドの気候変動対策活動にかつてない規模の貢献をもたらすでしょう。

友人の皆さん、

私たちは、気候変動対策資金に関する多くの約束が空虚なものであったことを知っています。私たちはより野心的な気候変動対策に取り組もうとしています。気候変動対策資金に関しても、パリ協定当時よりも高い野心を持たなければなりません。

インドは今日、気候変動に新しいコミットメントと新しいエネルギーをもって取り組み、前進しようと決意しています。気候変動対策資金の流れと低コストの気候関連技術の重要性は増えています。インドは、先進国が早期に1兆ドルの気候変動資金を提供することを期待しています。今日、気候緩和の進捗状況を把握することが必要であるように、私たちは、気候変動資金の流れも把握しなければなりません。

公正を期すために、気候変動対策資金についての約束を守らない国々には、しかるべき圧力をかけるべきでしょう。

友人の皆さん、

今日インドは、気候問題に対して大いなる勇気と野心をもって取り組み、前進しています。またインドは、他の発展途上国の苦しみを理解し、共有し、発展途上国の期待を主張し続けています。

多くの発展途上国は、気候変動により存在が脅かされています。私たちは今日、世界を救うため、大きな一歩を踏み出さなければなりません。これは喫緊の課題であり、この会議の重要性をも示唆しています。私は、グラスゴー会議における決断が、これからの世代に安全で繁栄した生活をもたらし、未来を救う力になると確信しています。

議長、話が予定より長くなりましたことを、お詫びいたします。しかし私は、発展途上国の声を届けることは自分の責務であると考えており、だからこそ、発展途上国の問題に焦点を当てて、お話しさせていただきました。ありがとうございました。